

DNP

DNP Report Vol.56

株主通信

第115期 第2四半期決算のご報告

平成20年4月1日～平成20年9月30日



DNP Report Vol.56



表紙：環境問題を学べるカードゲーム
「My Earth™ (マイアース)」

目 次

株主の皆様へ	1
クローズアップ1	2
第115期 第2四半期決算のご報告	3
クローズアップ2	8
トピックス	9
事業ハイライト	10
株式情報	12
会社情報	13

地球環境問題を理解し、環境保全活動の大切さを学べるカードゲームです。

DNPと慶應義塾大学の学生が立ち上げた合同会社マイアース・プロジェクトで、このゲームの販売や関連事業を展開しています。

CSR活動に取り組む企業からも注目が集まっています。

当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。記載された意見及び予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。

株主の皆様には、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また日頃は格別のご支援を賜り誠にありがとうございます。

ここに、第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）のDNPグループの営業概況につきまして、ご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、サブプライムローン問題に端を発した金融危機や世界経済の減速、原油をはじめとする資源価格の高騰等の影響により、停滞感が強まりました。

印刷業界においても、原材料価格の上昇や競争激化による受注単価の下落など、引き続き厳しい経営環境にありました。

このような状況のもと、DNPグループは、事業ビジョンとして掲げた「P&Iソリューション」に基づき、積極的な営業活動を展開して顧客ニーズに対応した製品、サービスとソリューションを提供するとともに、品質、コスト、納期など、あらゆる面で強い体質を持った生産体制の確立を目指した「モノづくり21活動」にグループを挙げて取り組み、業績の確保に努めました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は8,043億円（前年同期比1.3%増）、連結営業利益は399億円（前年同期比0.9%減）、連結経常利益は415億円（前年同期比0.1%増）、連結四半期純利益は165億円（前年同期比24.1%減）となりました。



代表取締役社長 北島義俊

今後の見通しについては、金融危機にともなう世界経済の減速や原材料価格の動向など、依然として不透明な状況が続く中で、国内景気も弱含みで推移するものと思われます。印刷業界においても、引き続き受注条件の悪化や競争の激化など厳しい状況が予想され、通期見通しを下方修正いたしました。

なお、当期の中間配当金は、11月14日開催の取締役会において、1株につき18円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

■新会社「DNPアートコミュニケーションズ」を設立



DNPアートコミュニケーションズが運営する美術館情報サイト「アートスケープ」<http://www.dnp.co.jp/artscape/>

DNPは、グラフィックデザインやアートに関連した事業の強化・発展を図るため、関連するグループ会社3社を統合して株式会社DNPアートコミュニケーションズを設立し、8月1日から営業を開始しました。

これまでDNPIは、印刷と関連の深いグラフィックアートへの支援や、印刷技術を活用した文化財・絵画の保存などを中心に、芸術・文化の振興に貢献してきました。特に、世界でも数少ないグラフィックデザイン専門ギャラリーを東京・銀座と大阪・難波で運営するなど、独自の活動を行ってきました。

こうした活動を通じて、フランス美術館連合や大英博物館、東京国立博物館などとの連携も深め、国内外で幅広くビジネスを展開してきました。今回、体制を新たにすることにより、アートをテーマとした出版物の発行、イベントやセミナーの実施、画像データのライセンス提供、グッズ販売などの事業をより効率的に推進するほか、事業企画の立案から、制作、製造、販売、運営まで、総合的なサービスを提供していきます。

■新会社「DNPフォトルシオ」を設立



DNPフォトルシオのロゴマーク

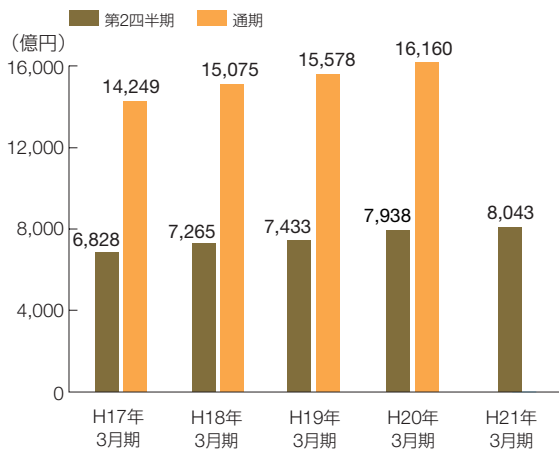
DNPは、フォトプリント事業での一層の競争力強化のため、証明写真事業を展開する株式会社DNPアイディーイメージング、写真関連製品を販売する株式会社DNPフォトマーケティング、KIOSK型セルフプリントシステムを販売する株式会社DNPプリントラッシュの3社を統合し、10月1日に株式会社DNPフォトルシオを設立しました。

デジタルカメラやカメラ付き携帯電話の普及にとともに、デジタル機器で撮影した写真をプリントするフォトプリント市場が大きく拡大しています。DNPIは、印刷技術を活かした昇華型熱転写記録材（プリント用インクリボン）で世界トップシェアを占めており、店頭で生活者自身がプリントできる「プリントラッシュ」を全国展開するなど、この分野に注力しています。

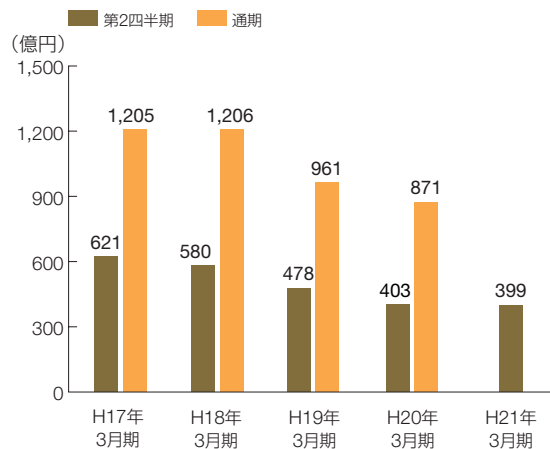
「FOTOLUSIO」は、DNPのフォトビジネスの事業ブランドで、PhotographとSolution、そしてRevolutionを表しています。各社の販売ルートの活用や拡大、商品やサービス機器の一元化によるラインナップの強化、マーケティング機能や製品開発機能の拡充を進め、顧客サービスの向上を目指します。

● データハイライト

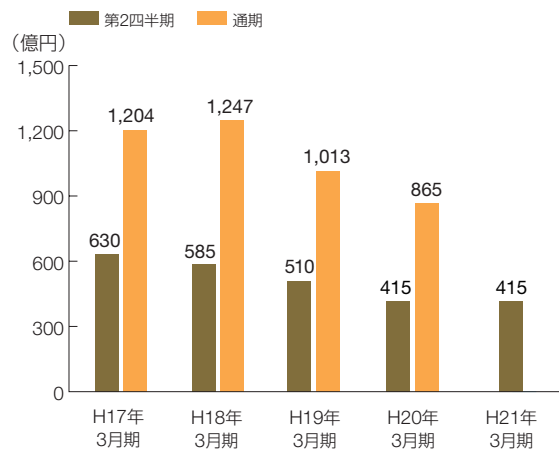
連結売上高



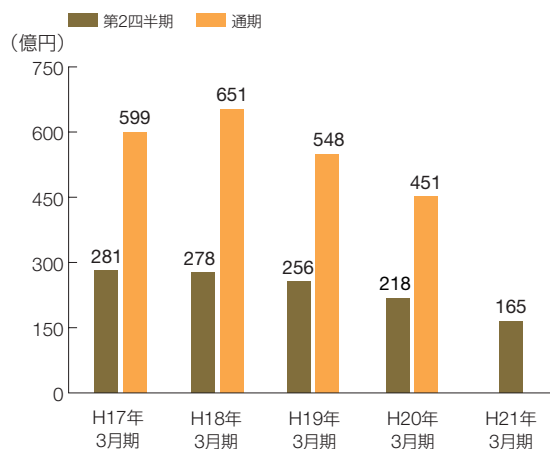
連結営業利益



連結経常利益



連結当期純利益



● 部門別営業報告

■ 印刷事業

情報コミュニケーション部門

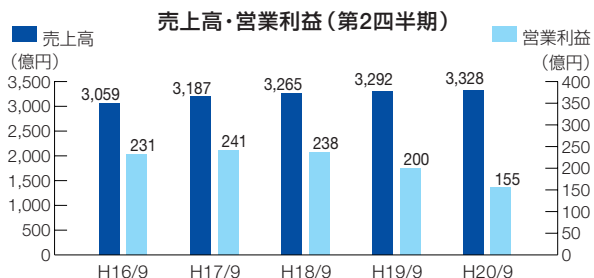


パーソナルメール



ICカード

売上高 3,328億円 (前年同期比 1.1%増)
 営業利益 155億円 (前年同期比22.4%減)



出版印刷関連は、出版市場の低迷が続き、書籍、雑誌、フリーペーパーとも減少しました。

商業印刷関連は、チラシ、パンフレットなどが減少しましたが、POPや店舗の設計・施工などが増加し、前年を上回りました。

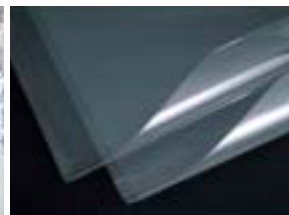
ビジネスフォーム関連は、パーソナルメールなどのデータ入力から印刷・発送までの業務を行うIPSが増加しましたが、ICカードが減少し、前年を下回りました。

このほか、M&Aによって取得した教育・出版流通事業が売上増加に寄与しました。

生活・産業部門

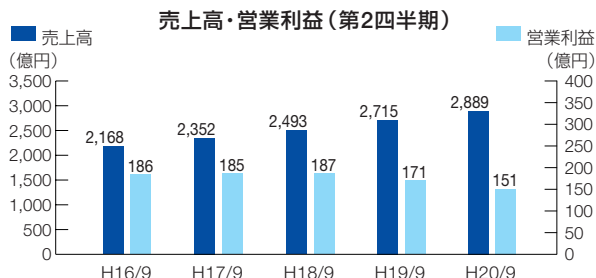


ペットボトル用無菌充填システム



薄型ディスプレイ用反射防止フィルム

売上高 2,889億円 (前年同期比 6.4%増)
 営業利益 151億円 (前年同期比11.2%減)



包装関連は、ペットボトルの第一次成型品プリフォームが減少しましたが、軟包装材、紙カップは増加しました。また、ペットボトル用無菌充填システムの受注もあり、前年を上回りました。

住空間マテリアル関連は、環境・健康に配慮した「サフマーレ」などの環境対応型化粧シートが、住宅需要低迷の影響を受け伸び悩みました。

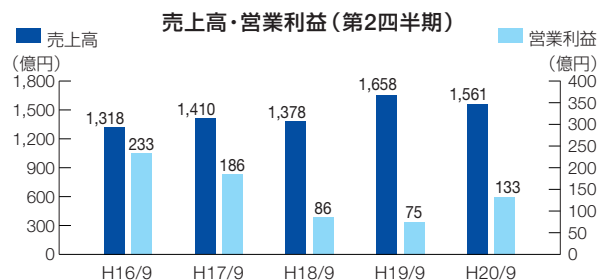
産業資材関連は、薄型ディスプレイ向けの各種光学フィルムやフォトプリンター用インクリボン及び受像紙が増加したほか、太陽電池用バックシートやポリマー電池用外装材などの電池用部材も増加し、前年を上回りました。

エレクトロニクス部門



第8世代液晶カラーフィルター 高密度ビルドアップ配線板

売上高 1,561億円 (前年同期比 5.8%減)
営業利益 133億円 (前年同期比 77.6%増)



液晶カラーフィルターは、9月に入り需要の伸び悩みはありましたが、北九州・黒崎工場の第8世代向け新ラインの稼動が寄与し、増加しました。また、フォトマスクやプラズマディスプレイ用背面板は減少しましたが、ハードディスク用サスペンションなどのエッチング製品、高密度ビルドアップ配線板は増加しました。

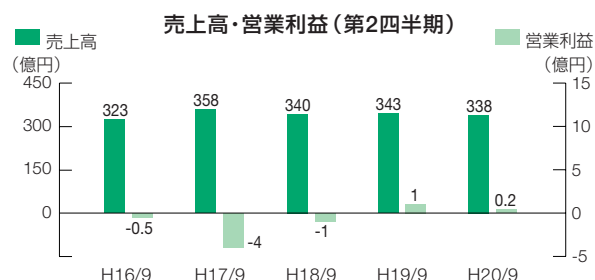
清涼飲料事業

清涼飲料部門



北海道コカ・コーラボトリング株式会社 「ミニッツメイド 大人の贅沢ぶどう」

売上高 338億円 (前年同期比 1.4%減)
営業利益 29百万円 (前年同期比 75.8%減)



炭酸飲料は増加しましたが、販売競争の激化により、主力のティー飲料が減少しました。「ファンタふるふるシェイカー オレンジ味」、「ノーカロリーコカ・コーラ プラスビタミン」などの新製品を発売したほか、北海道限定商品として「ミニッツメイド 大人の贅沢ぶどう」を投入し、業績の確保に努めました。

● 連結財務諸表

連結貸借対照表

(平成20年9月30日現在)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
<資産の部>		
流動資産	703,239	714,976
現金及び預金	113,147	131,058
受取手形及び売掛金	454,026	456,932
有価証券	8	11,102
商品及び製品	55,426	40,498
仕掛品	37,936	36,669
原材料及び貯蔵品	22,245	19,224
繰延税金資産	12,912	12,992
その他	13,036	11,781
貸倒引当金	△ 5,499	△ 5,283
固定資産	909,944	886,216
有形固定資産	649,787	639,343
建物及び構築物(純額)	211,995	209,544
機械装置及び運搬具(純額)	228,511	236,993
土地	132,009	130,655
建設仮勘定	45,763	35,413
その他(純額)	31,508	26,736
無形固定資産	52,856	35,404
のれん	27,706	12,684
ソフトウエア	20,503	19,473
その他	4,646	3,246
投資その他の資産	207,300	211,468
投資有価証券	139,606	150,057
長期貸付金	5,721	4,436
繰延税金資産	20,335	18,601
その他	55,433	49,041
貸倒引当金	△ 13,796	△ 10,668
資産合計	1,613,183	1,601,192

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
<負債の部>		
流動負債	481,790	454,367
支払手形及び買掛金	318,717	317,855
短期借入金	43,312	21,969
1年内返済予定の長期借入金	2,821	3,185
未払法人税等	16,285	16,911
賞与引当金	17,945	18,232
その他	82,709	76,212
固定負債	114,212	106,690
社債	50,100	50,100
長期借入金	4,909	4,850
退職給付引当金	43,143	40,349
その他	16,059	11,390
負債合計	596,002	561,057
<純資産の部>		
株主資本	966,453	990,122
資本金	114,464	114,464
資本剰余金	144,898	144,898
利益剰余金	800,989	797,316
自己株式	△ 93,899	△ 66,556
評価・換算差額等	7,851	12,738
その他有価証券評価差額金	8,173	10,610
繰延ヘッジ損益	20	7
為替換算調整勘定	△ 341	2,120
少数株主持分	42,876	37,274
純資産合計	1,017,181	1,040,135
負債純資産合計	1,613,183	1,601,192

連結損益計算書

(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前中間 連結会計期間
売上高	804,322	793,886
売上原価	660,625	654,194
売上総利益	143,697	139,691
販売費及び一般管理費	103,748	99,369
営業利益	39,948	40,322
営業外収益	6,334	6,048
受取利息	748	1,133
受取配当金	2,044	1,953
その他	3,542	2,961
営業外費用	4,713	4,856
支払利息	759	662
持分法による投資損失	1,129	207
その他	2,824	3,986
経常利益	41,569	41,513
特別利益	561	13,114
固定資産売却益	77	231
投資有価証券売却益	363	7,038
その他	121	5,844
特別損失	8,351	13,112
固定資産除売却損	2,872	1,847
投資有価証券評価損	3,099	732
その他	2,380	10,532
税金等調整前四半期(中間)純利益	33,779	41,515
法人税、住民税及び事業税	16,074	14,750
法人税等調整額	605	4,315
少数株主利益	532	609
四半期(中間)純利益	16,567	21,839

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)

(単位：百万円)

項目	当第2四半期 連結累計期間	前中間 連結会計期間
営業活動による キャッシュ・フロー	72,582	56,294
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 55,117	△ 45,323
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 33,812	△ 58,479
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 1,576	1,213
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 17,924	△ 46,294
現金及び現金同等物の 期首残高	130,695	170,488
現金及び現金同等物の 四半期末(中間期末)残高	112,770	124,194

■台湾政府より最優秀投資パートナー賞を受賞



台湾・馬英九総統（右）から表彰を受ける高波光一副社長（左）

DNPは、台湾政府の経済部（日本の経済産業省に相当）が主催する「台湾ビジネスアライアンス会議」において、台湾への投資に貢献した外資系企業に贈られる「最優秀投資パートナー賞」を受賞し、高波光一副社長が馬英九総統より表彰を受けました。今回の受賞は、2006年11月にDNP Photomask Technology Taiwan Co., Ltd. を設立し、ハイテク企業の集積地である新竹サイエンスパーク内に先端フォトマスク※1工場を建設していることに対して贈られたものです。

アジア地域のフォトマスク市場は、現在、世界の約3分の1を占め、高い成長が見込まれています。特に台湾は、直径の大きい最新の300mmウエハー※2に対応した半導体工場が世界で最も結集し、多くの半導体メーカーが最先端工場の建設を予定している一大生産地域です。



DNP Photomask Technology Taiwan Co., Ltd.

DNPは、半世紀前の1959年に、印刷技術を活かしてフォトマスクの開発に成功しました。以来、高い技術力を背景に業界の牽引役を果たし、現在、65nm※3対応の先端フォトマスクでは圧倒的なシェアを獲得しています。近年、フォトマスクの安定供給と短納期対応のニーズが高まっており、顧客企業の生産拠点に近い場所におけるフォトマスク製造とサポートが求められています。台湾に建設中の新工場は、こうした要望に応えたもので、2009年4月以降に本生産を開始する予定です。

※1. フォトマスク：半導体の原版。ガラス基板の上に高精細な回路パターンを作成した、IC（集積回路：Integrated Circuit）の製造に不可欠な製品。

※2. ウエハー：ICチップ製造用の基板材料。薄い円盤状で直径が大きい物ほど1枚から多くのICチップを製造できる。

※3. nm（ナノメートル）：10億分の1メートル

◆遊びながら環境問題を学べるカードゲームを事業化【7月7日発表】

DNPは、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生の起業を支援する取組みとして、学生2名との合同会社マイアース・プロジェクトを立ち上げました。この会社は、独自に開発した小中学生向けカードゲーム「My Earth™（マイアース）」*の販売及び関連事業を展開しています。このゲームは、地球環境を壊す側と守る側に分かれて、カードを使って戦うもので、地球を取り巻くさまざまな問題点や環境保全活動の大切さを学ぶことができます。実際に体験した子供たちから「面白い」「買いたい」といった声が多く寄せられ、企業からもCSR活動の一環として活用したいという要望をいただいています。*丸善にて販売しています。



カードゲーム「My Earth™（マイアース）」

◆再生医療用細胞シート培養フィルムの生産技術を確立【9月24日発表】

病気や事故などで失われた組織や臓器の治療に、人工培養した細胞を用いる再生医療の研究が進められています。DNPは、細胞シート工学による再生医療の研究と実用化を進める東京女子医科大学と、その学内ベンチャーで、細胞シートを製造する株式会社セルシードの協力を得て、印刷技術を活用した「細胞シート培養フィルム」の生産技術の開発に成功しました。細胞シート工学は、移植治療用に患者自身の皮膚や角膜などの細胞をシート上で人工培養するもので、今回開発したフィルムにより、培養後の細胞シートを傷つけずに、容易に取り扱うことができるようになりました。今後の再生医療の本格運用に向け、開発・改良を加えていきます。



再生医療用細胞シート培養フィルム

◆化粧アルミ板「アートテック®」が英国の高速鉄道車両の内装材に採用【9月30日発表】

鋼板に直接絵柄を印刷するDNPのオリジナル製品「エリオ鋼板」は、1962年の開発以来、多くの用途で利用されてきました。その製品バリエーションのひとつで、特に加工性と意匠性、不燃性に優れた化粧アルミ板「アートテック®」が、ロンドンとドーバー海峡入り口を結ぶ英国初の高速鉄道の新型車両の天井や扉内側の内装材として採用されました。この製品は、木目調や石目調などの素材感や高級感などを演出でき、高い硬度と優れた加工性が鉄道車両用の内装材として高く評価されています。これまでも、2007年1月に開通した台湾の新幹線や、国内の新幹線の車両に導入されています。



化粧アルミ板「アートテック®」

偽造防止などのニーズに応え、ホログラム製品を拡充

クレジットカードやキャッシュカード、金券類、社員証をはじめとした身分証明カードの偽造防止、そしてさまざまな製品のブランド保護などの用途で、近年、ホログラムの需要が高まっています。

2008年DNPは、半導体製品の製造で培った技術を活用して、より明るく、より細密な立体画像が表現できるホログラム「レリーフグラム™」を新たに開発しました。この製品は、レリーフ(浮き彫り細工)のように画像が浮かび上がって見えるもので、立体の形状をより正確に表示する独自性の高い表現が可能です。製造には高度な技術を必要とするため、本物同様に模倣・模造品をつくることは困難であり、目視による

真贋判定が容易になります。

また、この度、DNPのエンボス型ホログラム※1が、中国の全国偽造防止技術製品管理弁公室によって、優れた偽造防止効果を持つ製品に認定され「防偽技術評審証書」を取得しました。これにより、模倣・模造品への対策が強化されている中国市場において、DNPが提供する高セキュリティホログラムが使用できるようになりました。DNPはすでに、リップマン型ホログラム※2でも「防偽技術評審証書」を取得しており、顧客の要望に合わせた多様なホログラムを積極的に提供していきます。



「レリーフグラム™」イメージ
周囲に対して地球の画像が浮かび上がって見える。



※1. エンボス型ホログラム：
輝度が高く微細な画像を表現できるホログラム。量産性とコスト面で優れている。



※2. リップマン型ホログラム：
リアルで奥行きのある画像を表現できるホログラム。高度な技術が必要で、複製工程にも特殊設備が必要なことから偽造が極めて困難。

コアテクノロジー【ホログラム技術】

新製品や新サービスを生み出し、DNPの事業領域を広げるコアテクノロジー。印刷技術と情報技術を融合させた私たちの取組みは、世界の印刷業界をリードしています。注目の技術を紹介するこのコーナーでは、今回、セキュリティ用途などで利用が伸びているホログラムを取り上げます。

■ホログラムとは

ホログラムは、レーザー光を使って、被写体の位置情報や凹凸などの3次元情報を平面に記録した立体画像のことです。ホログラム製品の製造には高い技術や特殊な設備が必要であり、真似しにくい独自性のあるデザインを付与できるため、セキュリティ用途を中心に利用が拡大しています。DNPは金券類や各種カードの「偽造・コピー防止」と、小売商品の「模倣・模造防止」に大きく分けられるセキュリティ用途のホログラムは、世界のホログラム市場の6割強を占めています。

■製品への展開

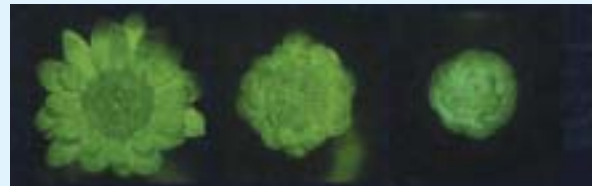
DNPのホログラムへの取組みは早く、1972年から商品開発に着手し、1981年にはエンボス型ホログラムの量産に成功しました。また、エンボス型よ

りもさらに製造が難しいリップマン型ホログラムについては、2001年に量産体制を確立しました。現在、この技術を保有しているのは、世界でDNPを含む2社だけです。

DNPは、日本におけるパイオニアとして、写真などの複雑で細密な画像や立体画像、フルカラー画像への対応など、独自技術を開発し続けてきました。2003年には、コンピュータグラフィックスの画像に対応した「バーチャグラム」を、2006年には、アニメーションのようにスムーズに動く画像を記録する「モーションイマージュ」を開発するなど、高度なホログラム技術で国内において高いシェアを獲得しています。今後は、販売促進を強化して、需要の増加に対応していきます。



バーチャグラム



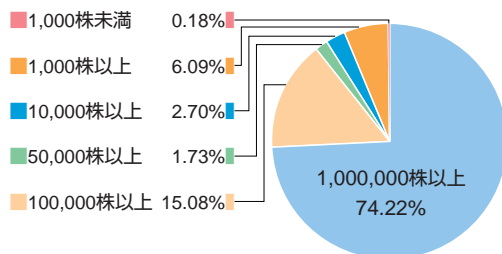
モーションイマージュ

■ 株式の状況

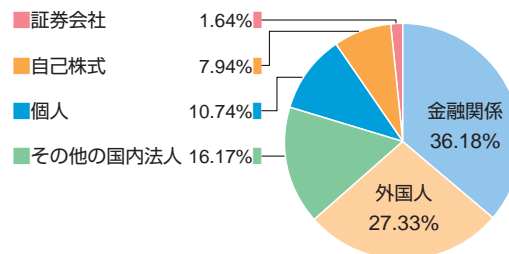
発行済株式総数
700,480,693株

株主数
30,167人

■ 所有数別分布状況

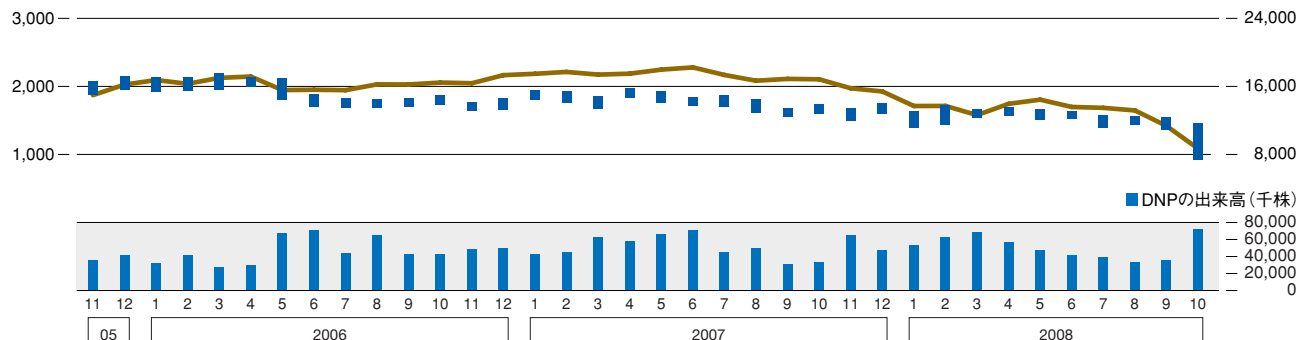


■ 所有者別分布状況



■ 株価/出来高推移

DNPの株価(円)



■ 主要大株主 (平成20年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	36,723	5.24
第一生命保険相互会社	34,646	4.95
ヒーローアンドカンパニー	23,561	3.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,740	3.25
ユービーエス エー ジー ロンドン アイビービー クライアント アカウ	21,623	3.09

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	19,491	2.78
株式会社みずほコーポレート銀行	15,242	2.18
日本生命保険相互会社	14,349	2.05
株式会社みずほ銀行	12,471	1.78
自社従業員持株会	10,188	1.45

(注) 上記以外に、当社は自己株式55,590(千株)を保有しております。なお、当該株式数には、株主名簿上は当社名義となっていますが、実質的に所有していない株式が1,000株含まれております。

■ 会社概要

商号

大日本印刷株式会社

英文社名

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

本社所在地

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
 電話 03 (3266) 2111 ダイヤルイン案内台
 URL <http://www.dnp.co.jp/>

創業

明治9年(1876年)10月

設立年月日

明治27年(1894年)1月19日

資本金

1,144億6,476万円

■ 取締役及び監査役

代表取締役社長	北島 義 俊	専務取締役	黒田雄次郎	常務取締役	野口賢治	取締役	塚田忠夫 ^{※1}
代表取締役副社長	高波 光 一	専務取締役	和田正彦	常務取締役	永野義昭	常勤監査役	中村憲昭
代表取締役副社長	猿渡 智	常務取締役	広木一正	常務取締役	北島元治	常勤監査役	米田 稔
代表取締役副社長	山田雅義	常務取締役	西村達也	常務取締役	清水孝夫	常勤監査役	湯澤 清 ^{※2}
専務取締役	波木井光彦	常務取締役	森野鉄治	取締役	小槇達男	監査役	根来泰周 ^{※2}
専務取締役	土田 修	常務取締役	戸井田孝	取締役	横溝 彰	監査役	野村晋右 ^{※2}
専務取締役	吉野晃臣	常務取締役	柏原 茂	取締役	野坂良樹		
専務取締役	北島義斉	常務取締役	秋重邦和	取締役	塚田正樹		

※1. 取締役 塚田忠夫は、「社外取締役」です。
 ※2. 常勤監査役 湯澤清、監査役 根来泰周及び野村晋右は、「社外監査役」です。

■ 役員 (コーポレート・オフィサー)

小栗 明	斎藤 隆	中村研介	峯村隆二
北湯口達郎	古谷滋海	神田徳次	小池正人
橋本耕一	不動田勝久	山川洋二	山口正登
赤田正典	西田吉男	和田 隆	延時重夫
山崎富士雄	土屋純一	墓田 栄	

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
名義書換取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
同事務取扱所 (郵便物送付先) (電話お問合せ)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 (平成20年12月まで) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (平成21年1月以降) みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
上場証券取引所	東京・大阪
公告方法	電子公告により行います。 (当社のホームページ http://www.dnp.co.jp/jis/ir) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

単元未満株式に関するお知らせ

1,000株に満たない株式(単元未満株式)をご所有の株主様が、当社に対しその単元未満株式の数と合わせて1単元になる数の株式を買増請求することができる「単元未満株式の買増制度」を導入いたしております。

また、単元未満株式の買増請求につきましても、お取り扱いいたしております。

お手続きをご希望の株主様は、当社株主名簿管理人(みずほ信託銀行 フリーダイヤル:0120-288-324)へお問い合わせください。